

CASBEE™ 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)学研都市病院老健施設増築	階数	地上5F
建設地	京都府相楽郡精華町精華台7丁目	構造	RC造
用途地域	準工業地域、22条地域	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年1月 予定	評価の実施日	2010年1月13日
敷地面積	22,434 m ²	作成者	池田 郁英
建築面積	1,356 m ²	確認日	
延床面積	5,190 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能
Q1 室内環境
Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

建設 修繕・更新・解体 運用

参照値: 100%
評価対象: 92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
既存建物と意匠を統一し町並みの景観を損なわないこと。 既存の植樹などをできるだけ残し緑豊かな環境とすること。 開口部には複層ガラスを用い建物の外皮性能の向上を図ること。	特になし。	
Q1 室内環境 老人が24時間生活をする場所であるため、明るく・暖かく・静かな質の高い居住環境を目指した。	Q2 サービス性能 老人が使用中にも設備の更新が行うために十分なパイプスペースや天井高さを備え将来の間仕切りの変更にも対応するよう柱・梁・外壁以外はほとんど軽量間仕切りを使用した。	Q3 室外環境(敷地内) 町並みの景観を損なわないこと(京都府の景観審議会によって審議)。 敷地の緑化に努めること。
LR1 エネルギー 建物の使用方法や、各室の使用頻度にあわせて設備機器を選定した。 外壁の開口部には複層ガラスを用いエネルギーの省力化に努めた。	LR2 資源・マテリアル 可能な範囲でエコマーク認定の建材を採用し、持続可能な社会における建築生産を目指した。	LR3 敷地外環境 騒音や振動など精華町の基準を満たし、雨水についても自己敷地内で浸透させる仕組みを採用し敷地外の環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい